




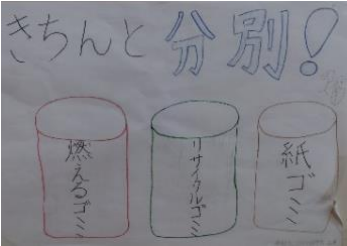
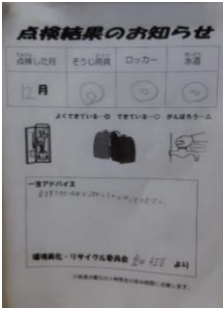
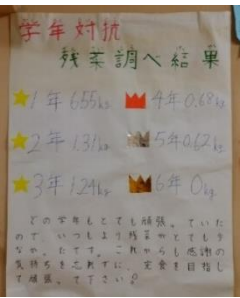
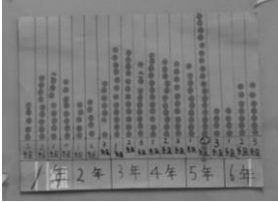
平成 2 8 年度 学校版環境 I S O への取組 概要報告


管内	市町村	学校名
菊池	合志市	合志市立西合志中央小学校

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言	 <p>児童集会での発表の様子</p>	<p>本校は、児童数 6 1 0 名の中規模校であり、児童数は年々増加傾向にある。それに伴い、水道、電気の使用量も毎年増加している。環境に対する意識は社会科や総合的な学習の時間などで学ぶことから高学年になるにつれて高くなる。しかし低学年には節水・節電の概念がまだ定着しておらず、学校全体としての呼びかけが必要である。そこで今年度も環境美化・リサイクル委員会を中心に、学校版環境 I S O に取り組んでいった。年度当初の委員会活動時に、環境を守ることの大切さを学習し、自分たちにできることを考えた。話し合いで、次のような宣言文を決めた。</p>
	 <p>宣言のポスター（児童）</p>	<p>《児童の宣言項目》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コップ 1 杯の水で歯を磨き、バケツ 1 杯の水で掃除をして、水を大切に使います。（5%減）</li> <li>2 学級園や学校園を有効に活用し、自然を大切にします。</li> <li>3 環境保全について進んで学習します。</li> <li>4 ゴミを正しく分別し、リサイクルを推進します。</li> <li>5 給食は食べ残しゼロを目指します。</li> </ol>
	 <p>宣言のポスター（職員）</p>	<p>《職員の宣言項目》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 節水・節電を心がけます。 (電気・水使用量 5%減、冷房 28 度、暖房 18 度)</li> <li>2 ゴミの分別を徹底します。</li> <li>3 給食指導を徹底し、残滓をなくします。</li> <li>4 両面印刷や裏紙の再利用で紙の消費を控ええます。</li> <li>5 校舎・校庭の掃除指導を徹底し、無言掃除に取り組みます。</li> </ol> <p>5 月の児童集会で環境美化・リサイクル委員会が節水についてのクイズを出し、全校児童に節水の呼びかけを行うとともに、宣言文を伝えた。</p>

<p>行動</p>	<div style="text-align: center;">  <p>バケツ 1 杯で雑巾を洗う様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コップ 1 杯で歯磨きする様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栽培委員の花の手入れ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コンポストに生ゴミを混ぜる様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サニーレタスを植えている様子</p> </div>	<p><b>1 コップ 1 杯の水で歯を磨き、バケツ 1 杯の水で掃除をして、水を大切に使います。</b></p> <p>環境美化・リサイクル委員会では、毎週水曜日に水道の点検を行った。点検の内容は、蛇口のから水が出しっ放しになっていないか、手洗い場が衛生的に使われているか等を調べた。点検結果を各クラスに知らせるとともに、よくできていた学級は放送で発表した。</p> <p>清掃時は、雑巾はバケツの水で洗うように各学級で指導を徹底した。また、掃除以外でも、手を石けんで洗う場合、手に石鹸をつけている間は水をためておくことや、歯みがきの時は、コップを使うことを徹底し、定着している。</p> <p><b>2 学級園や学校園を有効に活用し、自然を大切にします。</b></p> <p>栽培委員会は、校内の美化活動に努め、種から育てた様々な花を花壇に植えた。また、児童集会では委員会の活動を紹介するとともに、花を大切に作る劇を行った。</p> <p>学級園では、各学級で花や野菜を植え、水かけや草取りの手入れを行った。草取りや水やり等、自主的に行う児童も出てきた。</p> <p><b>3 環境保全について進んで学習します。</b></p> <p>各学年で、環境教育年間計画に沿って各教科、道徳などで学習を進めた。特に、5年生では総合的な学習の時間に、水俣学習を通して環境問題について学び、環境を守ることの大切さを学習した。その学習を受けて、自分たちにできることを考えるために、地域で活動しておられるNPO法人生ゴミ研究会の方の指導のもと、ダンボールコンポストによる堆肥作りに取り組んだ。各家庭から生ゴミを集め、基材（ビートモス他）と混ぜ、これを1ヶ月ほど繰り返した。1ヶ月の熟成後、堆肥ができあがり、その堆肥を使ったサニーレタスを育てた。収穫後は、調理し、みんなで食べるという活動を行った。生ゴミが堆肥となり、堆肥から植物を育てるという「循環」を5年生の児童は体験を通して学んだ。</p>
-----------	--	---

	 <p>牛乳パック回収の様子</p>  <p>ゴミ分別のポスター</p>	<p><b>4 ゴミを正しく分別し、リサイクルを推進します。</b></p> <p>給食委員会は牛乳パックのリサイクルをしやすいするために牛乳の飲み残しをなくすことに取り組んだ。毎日牛乳パックの回収箱の前に給食委員が立ち、飲み残しがないか調べた。飲み残しがあったクラスにはレッドカードを配り、クラスに注意を呼びかけることで一滴も残さないように取り組んだ。</p> <p>環境美化・リサイクル委員はリサイクルを啓発するポスターを作り、各クラスに配布して分別の仕方を説明し、分別に取り組むよう呼びかけた。</p> <p><b>5 給食は食べ残しゼロを目指します。</b></p> <p>給食委員会が中心となり、給食の残滓調べを行った。10月24日～28日までの一週間、学年ごとに残滓を調べた。</p>
<p>記録</p>	 <p>点検結果のお知らせ</p>  <p>給食の残滓調べの結果</p>  <p>給食の飲み残し調べの結果</p>	<p><b>1 水の節水</b></p> <p>5月から環境美化・リサイクル委員会が点検した結果を表にして記録を続けた。5月には「よくできた」及び「できた」だったクラスが19クラス中11クラスだったのに対して、12月は15クラスに増えている。</p> <p><b>2 残滓ゼロ</b></p> <p>残滓調べを行い、学年ごとに何グラムだったか一週間の記録をまとめた。残滓率が前週の量が1.6%だったのに比べ、0.8%と半分が減った。結果はグラフにまとめて給食室に掲示をするとともに放送で発表し、児童の意識を高めるようにした。また給食委員が作った賞状を各クラスに渡し、頑張りが今後も継続するようにした。2学期は飲み残し調べも行い、シールを貼って視覚的に分かるようにした。</p>
<p>見直し</p>	<p>3学期に、クラスごとに節水・ゴミの分別についての意識調査を行った。その結果、約6割の児童が節水をいつも心掛けているという結果だった。ゴミの分別</p>	

 <p data-bbox="308 472 619 551">環境の意識調査の結果を 集計している様子</p>	<p data-bbox="719 197 1430 712">をいつも意識している児童も同じく 6 割いることが分かった。特に環境問題について学んだ 5 年生は、「いつも意識する」「たまに意識する」を合わせると 9 割以上になることが分かった。しかし、水の節水は、ゴミの分別に比べてあまり意識をしない人の割合が 1 割ほどいた。その原因として、低学年の児童には、水の大切さを十分に知らせる時間がとれず、十分理解できていないことが原因と考えられた。そこで環境美化・リサイクル委員会は、この結果を児童集会で発表し、熊本地震で経験したことと重ねながら、節水することの大切さを呼びかけた。</p>
---	---

## 2 成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境美化・リサイクル委員会の児童が中心となり、児童が主体的に環境への取り組みを行うことができた。高学年の児童が自分達で考えて行動したり呼びかけたりすることで、他の学年でも環境に対する意識が少しずつついてきた。</li> <li>○環境美化・リサイクル委員が毎週チェックを行うことで、節水に取り組むなど環境への配慮を継続することができた。</li> <li>○牛乳パックをたたんでリサイクルすること、飲み残しを減らすことは定着している。</li> <li>○栽培委員会が中心となって美化活動に努めることで、学校が花でいっぱいになった。</li> <li>○学級園を有効に活用することで、児童に自然を大切にしようという気持ちが芽生えた。</li> <li>○1 学期に比べると、給食の残滓の量が減り、児童が完食しようとする意識が高まった。</li> <li>○5 年生に行った環境教育アンケートの結果から、「環境を守るために家庭など（学校生活以外）で心掛けていることがあるか。」という質問に対し、「ある」「だいたいある」と答えた児童が 9 割いた。段ボールコンポストの取り組みを通して、水俣での学びを自分たちの生活の中に取り入れ、環境保全に結びつけて考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●残滓や無言掃除の取り組みは、キャンペーンをしたときは意識が高まるが、終わった後にはまた元に戻ってしまうクラスもあった。継続した指導が必要である。</li> <li>●5 年生以外は家庭への啓発が不十分であった。</li> <li>●目標として電気・水道使用量 5 % 減を掲げたが、結果として達成することができなかった。学級数や児童数が増加したこともあるが、省エネルギーへの意識改革があと一歩だった。今後はエアコンや照明の使用も見直したい。水の節約もさらなる啓発が必要である。</li> <li>●給食の残滓が学年間で大きく差が出ている。学年をあげての日常的な取り組みと共に、定期的にキャンペーンを実施するなど工夫が必要である。</li> <li>●職員室の紙の使い方に無駄がある。裏紙を使いやすいように整理して箱に入れたり、両面を使った紙はリサイクル用の箱に入れたりする取り組みが必要である。また、職員が紙の節約をもっと心掛けるための呼びかけを行ったりポスターを作ったりして職員の意識を高めていきたい。</li> </ul>

